

入選

地域から起こす笑顔の連鎖

熊本大学教育学部附属中学校 二年 廣岡里奈

『とじまり用心、火の用心、カンカン』

毎日、夜に聞こえてくるこの音。いつもなにげなく聞いていたこの音。私にとっては、あたりまえだった。でも、それはあたりまえではないと気づいた。

私の住んでいる地域では、私たちの暮らしが安全で安心できるように、夜の防犯パトロールが行われている。私がまだ産まれる以前に、地域で暴行や空き巣が多発していたそうだ。そのときから始まったパトロールは、地域の自治会の方々を中心にした、ボランティアで行われている。昨年他界した祖父も、そのメンバーの一員だった。そして、私の気持ちを変えてくれたのは、祖父がまだ生きていた年の冬の日のできごとだ。

クリスマスになると、パトロールの日に、お菓子や文房具を、地域の子どもたちに配ってくれる。私も、小学生のときは、そのプレゼントを楽しみに待っていた。中学生になり、祖父に、

「パトロールに参加してみんね。」

と言われたのをきっかけに、私は初めて、参加した。温かい家の中から外に出てみると、外には真冬の寒さが待っていた。

「いつもこんなに寒い中、パトロールを行っているんだ。」というのが、私の最初の感情だった。しばらくして、着々と人が集まってきた。

「やっと始まった。」

と、はりきって歩き出した私だったが、思ったよりもパトロールは長い。いつもは出る声も、気恥ずかしさや寒さで思うように出ない。回る先々で、家の中からあふれている温かい光。楽しそうな声。私がこんなに一生懸命声をかけているのに、家の中の人は何も知らない。だが、祖父や防犯パトロールの方は、聞く聞かず関係なく、声をはりあげている。パトロールが始まり、地域の犯罪はとても減ったそうだ。

私は、地域の方との関わりを、ふり返ってみた。小学生のときの帰り道。緑色のベストと帽子をかぶった人が、みんなの帰路に立っていた。よくはりかえられている地域のポスター。七夕の時期になると、通学路にある家の人は短冊を用意して、笹飾りを立ててくれて私たちに、

「書いていってね。」

と、待っていてくれた。

思い返してみると、私の周りには、家族ではない人からの小さな親切があふれていた。私は思った。今までもらった親切という名の宝物を、これからは私が誰かに授けていくべきだと。

小さな親切には、地域の笑顔。県の笑顔は国の笑顔。そして、国の笑顔は世界の笑顔。笑顔の連鎖は、つながっていく。

『とじまり用心、火の用心、カンカン』

今日も、防犯パトロールの音が、聞こえてくる。